



第26号  
平成13年  
2001

会 報

# にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

## 目 次

|                                          |               |    |
|------------------------------------------|---------------|----|
| ご 換 拶……………                               | 同窓会 会長 寺田 郁雄… | 1  |
| ご 換 拶……………                               | 学校長 橋本 俊彦…    | 2  |
| 学校の近況報告……………                             | 教 頭 垣内 守男…    | 2  |
| 進路指導部より……………                             | 西村 孝昭…        | 4  |
| 関東支部だより 同郷、同窓の有難さを実感……………                | 山本 義雄…        | 4  |
| 京滋支部だより 支部創立10周年を迎えて……………                | 田村 武夫…        | 5  |
| 『同窓会の活性化と起業の促進』                          |               |    |
| 京滋支部で活躍の紅一点紹介                            |               |    |
| 『孫にも見せたい故郷須崎』……………                       | 吉村 弘子…        | 6  |
| 大阪支部だより……………                             | 山名潤治郎…        | 7  |
| 高知支部だより 記念同窓会の盛会を祝う……………                 | 井上 健弘…        | 8  |
| 須崎支部だより ドラゴンカヌー大会に出場して……………              | 坂本 定浩…        | 10 |
| 事務局便り……………                               |               | 11 |
| 終身会費納入者(1年間分)平成12年10月1日～平成13年9月30日)…………… |               | 13 |
| 平成12年度決算並びに平成13年度予算……………                 |               | 14 |
| 平成13年度役員……………                            |               | 15 |



## ご挨拶

昭和二十一年機械科第一種卒

同窓会会長 寺田 郁雄

同窓会の皆様には、お元気でご活躍のことと、御慶び申し上げます。

扱て、会員の皆様には、日頃より同窓会活動に御理解をいただき、何かと御協力を賜っており、衷心より厚く御礼申し上げます。御陰様をもちまして、会員数も九千八百四名となり、各支部も支部長、支部役員の強力なる指導のもと、精力的な活躍をされております。

誠に御同慶のかぎりであります。

本年五月二十五日には、例年の如く高知支部総会が高知会館で開催されました。本部からも多数出席し、又恩師の先生方の御来臨もあり、本当に大盛会でございました。

当日には、母校の将来につきまして、一、二の発言がありました。六月に発表される県教育委員会の学科改編を待つべし、「須崎工業の将来は心配ない」との力強い学校長の御発言で、一同納得致しました。

そして、六月二十一日の高知新聞に、県教委より六月二十日、県立高校の十四年度の学科改編の結果が掲載されました。それによりますと、我が須崎工業高校の「化学工業科」は募集停止となり、「電気科」を「電気情報科」に改め、「機械科」「造船科」の三科にして、十四年度より改編されることが打ち出されました。

右の改編を、須工として、前進とみるか、後退とするか、それは、人それぞれ見方も考え方も異なりましようが、早急にかつ速やかに検討すべき課題ではないでしょうか。

今まで、お聞きしたところによりますと、二学科では学校の運営は成り立たないと言われています。来年度より三科三クラスと言うことは、一つ間違えば二学科即ち我々が最も恐れてきた事実上の後退であり、須崎高校との統合もしくは廃校への一里塚を見る思いがしてなりません。

曲がりなりにでも四学科が存置できていたものかどうか、三学科にしなければならなかったか、三学科にした理由、或いはそのメリット等を県教委に聞いてみたいものであります。我々の全く考えのつかない答えが返ってくるかもしれません。私は、今まで何度となく会報の紙面にこの問題に触れたことがあります。今こそ、重大なる局面であり座視するわけには参りません。「起死回生の時です」会員の奮起を切にお願い申し上げます。

この九月十日には、高知市の三翠園で「須崎工業高等学校電気通信科設置五十年記念大会」が開催され県内外の会員及び賛同者三百余名が集合し往時を忍び友と語り、友情の輪を拡げ大盛會裏に閉会いたしました。記念すべき有意義な一日となり計り知れない母校に対する情を感じたことと思ひます。電

気通信科卒業の皆さん、心より御慶び申し上げます。当日、私は健康上の都合で出席出来ませんでした。本当に残念に思っております。

扱て、世の中さぞま思ふようにはなりません。今年の夏の暑さは大変でした。又、高知県西南部を襲った凄まじき豪雨災害、心より御見舞い申し上げます。

そして、世界経済の中心ニューヨークの同時多発テロによる、世界に誇る百十階の二つのビルが見る間に崩壊し六千人以上の尊い命が失われました。ほんとうに地獄の惨状でありました。この一連の多発テロ事件に対し善し悪しは別にして、各国が一丸となつて解決に立ち上がっております。

そうです。誰かが言いました。「人間は考える葦である」と。どんなに大きなことでも小さなことでも世の中のことには変わりはありません。我々はよく考え、よく調査をし、実態をよく把握し、果敢に取り組んで立ち上がらなければなりません。そして解決しなければなりません。

母校と同窓会は運命共同体であります。何として母校を守らなければなりません。まだ時間はあります。会員相互の友情の輪を拡げながら互いに英知を結集し、母校の隆盛に協力していこうではありませんか。

終わりに臨み、第26号会報「にしきうら」発刊に際し、ご協力いただいた各支部の皆さん並びに母校の先生方、事務局、関係各位に對しまして心より感謝いたします。

ここに母校の更なる隆盛と会員各位の御健勝を衷心より祈念申し上げまして挨拶とさせていただきます。





## ご挨拶

学校長 橋本俊彦

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で活躍のことと存じます。日頃は本校の教育活動にご支援、ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

昭和十六年に創立されました須崎工業高校は今年で六十年の歴史を刻むこととなりました。卒業生は約九千人、先輩方が築いてこられた輝かしい歴史のもと、在校生は日々学習に部活動に勤しんでおります。

この六十年、本校の設置学科を振り返ってみますと、機械科単科で創設され、その後昭和十九年には造船科、二十七年には電気通信科（四十年に募集停止）、三十四年には化学工業科、三十八年には電気科が増設されております。この間クラス数の増減がありました。現在は機械、造船、化学工業、電気

の四科がそれぞれ一クラス設置されております。社会や産業構造の変化に対応した教育の推進が言われ、社会のニーズ、少子化・情報化が進む中、学科改編につきまして、高知県教育委員会の指導を受けながら、数年来校内で検討してきました。そして、高知県内の方々は、新聞等でご存じと思いますが、十四年度より本校は機械、造船、電気情報科の三科一クラス総定員三百六十名の規模の工業高校となることとが決定しました。化学工業科が募集停止となり、

寂しくなります。また電気科は情報関連科目を履修

できる電気情報科に改編されます。学年進行で行われますので、現在の在校生につきましては、今の課程で進行することとなります。一時は他校と併合されはしないかという心配もおかけしました。同窓生の皆様におかれましては、今後益々、母校に対するご声援をお願いいたします。

この様な中、九月十日、高知市の三翠園におきまして、電気通信科設置五十周年を記念しまして全国規模の同窓会が開催されました。秋山実行委員長を中心に顧問、同窓会支部長、多くの実行委員、世話人の皆様方のご苦勞により、盛大に同窓会は開催されました。あちこちのテーブルから、旧友を温めあいながらの尽きせぬ思い出話が聞かれました。このような同窓会活動により、母校を盛り上げていただくことは学校にとりまして、大変嬉しく、深く感謝申し上げます。また、電気通信科設置五十周年を記念しまして三十年電気通信科卒業で大阪支部の野並允温様よりはナール山岳風景「ポインセチアとアンナブル十連山」の八百号の大作油彩画をご寄贈いただきました。感動いたしました。生徒達に披露し、末長く展示いたしたく場所等検討中でございます。誠に有り難うございました。

また、創立六十周年を記念しまして、十三年度版

会員名簿を発行することになっております。どうぞこの名簿が同窓生や恩師との思い出を確かめあい、さらに交流が深まりますようお願いいたします。最後になりましたが、本校同窓会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 学校の近況報告



教頭  
垣内守男

須崎工業高校同窓の皆様には益々ご清祥にてご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進指導にご理解とご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

私は、本年度新たに教頭として着任させていただきました者ですが、学校の近況をご報告させていただきます。

平成十三年三月一日に行いました卒業式では、笹

岡豊徳須崎市助役、寺田郁雄同窓会長はじめ多数のご来賓の方々に参列していただきました。百十一名の生徒が卒業し学び舎を巣立ち、新たに同窓会の一員となっておりますので、先輩諸氏には今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

### 教職員の人事異動

本年度は転出、転入それぞれ次の八名の異動がありました。本校の教育に永年ご尽力されたおふたりの先生が退職され、六名の先生が転出されました。退職された西森昌身先生は本校のOBでもありますので、同窓の皆様には寂しい思いを抱かれる方も多いと存じますが、ご退職、ご転出された先生方のご健勝を願いたいと思います。

### 退職

戸田 泰輔(化学工業科)  
西森 昌身(電気科)

### 転出

中山 護邦(教頭)  
近藤 卓(地歴・公民)  
西川 哲夫(機械科)  
竹崎 貞男(機械科)  
藤原 章弘(電気科)  
武田みのり(養護)  
垣内 守男(教頭)  
山下 順生(数 学)

### 転入

深瀬 尚子(地歴・公民)  
西本 浩治(機械科)  
澤田 典良(電気科)  
小川 望(電気科)  
宮崎 司(造船科)  
鎮西佐和子(養護)

### 学科改編

少子高齢化や情報化社会の進展等により教育環境は大きな変革の時期となっております。そのようななか、本年度は、機械科四十名、造船科三十四名、化学工業科二十三名、電気科三十名の新入生を迎え、生徒総数四百二名でスタートしましたが、少子化の影響もあり、生徒総数の対前年度比は約三%減となりました。高吾地区における少子化傾向は本校に深刻な影を落とし、図らずも本年度をもって化学工業科は募集を停止することになりました。この約四十年間に化学工業科を卒業された千二百名あまりの同窓諸氏の心中を思うと残念でなりません、学校としましては、この最後となる二十三名が化学工業科で学んだことを誇りと思えるよう最大の援助をしなければならぬと考えています。

また、教育改革が叫ばれるなか、本校においても学校改革が求められ、平成十四年度からは電気科を電気情報科と改編することになり、大幅な選択制の導入など時代の変化や生徒のニーズに対応した教育を展開しようと考えています。同窓の皆さんには今後ともご助言やご支援をお願いいたします。

### 学校行事・クラブ活動等

開校記念日の五月二十五日には、第九期機械科卒業生で東洋園芸株式会社取締役の中西安男氏に記念講演を行っていただきました。氏の在学時代の体験談を踏まえ、現在の立場から高校生に望む事などをお話いただき、OBの方が後輩を思う言葉に生徒たちは熱心に耳を傾けていました。

須崎市の恒例の事業となりましたドラゴンカヌー大会は七月十五日に開催され、三十チームを超える

参加があり盛大に開催されました。本校からも教員チーム、生徒チーム、PTAチームなどが参加し、空手道部チームは生徒の部で優勝しました。

クラブ活動も年々盛んになっており、ソフトボール部は関西地区高校男子ソフトボール研修大会で優勝し、高知県総合体育大会では、空手道部が準優勝、野球部がベスト4、高吾地区秋季大会ではソフトボール部と陸上部(百m)が優勝しました。また、同好会としてフリークライミングや自転車などの新しい活動もはじまり、クラブ活動が活性化しています。その他、本年度は「オリジナル」と題して、第十九回文化祭を十月二十八日(日)に実施することになっています。

この報告をお読みいただく頃には文化祭も終わり、二学期も終盤になっている頃だと思いますが、同窓の皆様方のご健勝をお祈りするとともに、引き続き本校へのご支援をお願い申し上げて報告とさせていただきます。

全校生徒数402名 平成13年4月

|       | 1年  | 2年  | 3年  |
|-------|-----|-----|-----|
| 機 械 科 | 40  | 39  | 40  |
| 造 船 科 | 34  | 33  | 33  |
| 化学工業科 | 23  | 29  | 36  |
| 電 気 科 | 30  | 32  | 33  |
| 計     | 127 | 133 | 142 |

# 進路指導部より

西村孝昭

西川哲夫先生が高知工業高校に転出された後を受け、本年は、西村(部長 化学工業科)、西山(第一就職 造船科)、藤岡(常務 公務員 機械科)、平野(佳代 進学 国語科)、岡崎(俊樹 3M主任)、福原(大海 3S主任)、磯元(幸弘 3C主任)、三谷(誠志 3E主任)の七名で進路指導部を担当しています。また、多田玲子さんに変わらず事務手続きのお世話をいただいております。閲覧室の円卓はなくなりましたが、部屋は元の位置に故広瀬雄助先生当時の面影を残したままです。

長引く不況により、就職は益々厳しさを増しておりますが、生徒数を上回る求人数を維持できていることを思えば、本校はまだ恵まれております。ひとえに卒業生ご各位の精進のためものと感謝申し上げます。昨年度の求人総数は二二二社でしたが、本年八月末までに載いた求人数は一八二社で、昨年の同時期と比較しても漸減の傾向が否めません。二〇〇〇社に余る求人票の中から進路決定をされた時代とは隔世の感があります。

近年の傾向として、進学率の増加が上げられます。大学、専門学校への勧誘も極めて熱心です。昨年度は一一名の卒業生中三十四名が進学しましたが、本年は現時点で一四一名の卒業予定者中、八月末日までに入社試験の手続きを完了した者は六十余名で、或いは、進学率が五十パーセントを上回る最初の学年となるかも知れない状況です。化学工業科は現一年生が最後の生徒となります。産業界同様、皆様の

母校もかつて無い変革期に直面致しております。なお各表は昨年度までの地域別就職者数、進路状況の推移、本年度並びに過去三年間の求人状況です。

(九月一日 記)

○地域別就職者数

| 年 度  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
|------|----|----|----|----|----|
| 県 内  | 56 | 47 | 28 | 43 | 30 |
| 中・四国 | 18 | 22 | 14 | 15 | 14 |
| 大 阪  | 21 | 17 | 11 | 12 | 12 |
| 東 海  | 14 | 13 | 9  | 8  | 5  |
| 関 東  | 7  | 7  | 15 | 4  | 3  |

## 進 路 状 況

○進路状況の推移

| 年 度 | 生徒数 | 進 学 | 就 職 |     | その他 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     |     |     | 県 内 | 県 外 |     |
| 9   | 128 | 22  | 47  | 59  | 0   |
| 10  | 105 | 28  | 28  | 49  | 0   |
| 11  | 99  | 17  | 43  | 39  | 0   |
| 12  | 111 | 33  | 30  | 34  | 14  |

○本年度並びに過去3年間の求人状況 (会社数)

| 地域<br>年度 | 関西<br>大阪 | 東 海 | 関 東 | 中・四国 | 県外5地域<br>合計 | 県 内 | 計   |
|----------|----------|-----|-----|------|-------------|-----|-----|
| 10       | 143      | 58  | 85  | 55   | 341         | 72  | 413 |
| 11       | 81       | 23  | 45  | 40   | 189         | 55  | 244 |
| 12       | 67       | 23  | 34  | 36   | 160         | 60  | 220 |
| 13       | 51       | 17  | 47  | 29   | 144         | 43  | 187 |

(13年度については、10月末現在です)

## 同郷、同窓の有難さを実感

昭和四十六年機械科卒 山本義雄

関東支部だより

全国各地でご活躍の同窓生の皆様がたにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
今年の関東の夏は過酷な暑さに見舞われ、私の住む千葉県内の水需要も厳しく、一時は利根川上流八ダムの貯水率が五十%近くと減少し、県内一部で取水制限が実施された時もありましたが、幸いにも、住居をかまえる市原市の牛久では、私の田舎の越知町野老山に似た、緑豊かな自然に恵まれた環境が幸いし、何とか急場をしのぐことができました。

そんな矢先、関東支部長の堀内先輩から、寄稿の依頼があり(案の定、四苦八苦の末がこれ!)思わず絶句したところです。しかし平成十一年の関東支部総会の後、なすがままあるがままの、性格が災いし役員にはなったものの、まともなお手伝いが何一つ出来ない心苦しさも手伝い、たよりを寄せさせていただきましたが、なにしろ関東支部にあざわしい情報を持ち合わせておらず、自身の近況報告となりましたことをお詫びしておきます。

ちようど、三十年前の昭和四十六年に機械科を卒業し、以来富士電機の千葉事業所(送変電機器を中心とした製造工場)にお世話になっております。

実は、(本当に)仕事だけが楽しみで、初代中内知章校長の「技術のために命を投げよ」「技術のためには命を捧げよ」という遺訓に少しでも報いるべき道中の入口で、しかも社会的なお付き合いも

あまり上手でない私が、こうして関東支部同窓会メンバーの方々と親しくお付き合いさせて頂いておられます。その出会いとは振り返ってみますと、「千がひとつや万がいち」という人選で、居住地である市原市の市議会議員選挙に立候補という、まさに晴天のへきれきの事件からおこったのです。

会社のOB先輩から紹介された、逸見先輩（S38 T卒・市内外で活躍の文化人）から発信されたネットワークはあつという間に同窓の市原市在住者の方々に会おう機会に結びつくことになりました。この間、除で情報をおいただき本当にご尽力いただいた、梅下前副支部長には大変お世話になったところです。

こうしたつながりで先日、奥田先輩（S31 M卒）の努める会社が集まる多くの同窓の方々と親しく話す機会がありました。T50年行事も出席出来ずお互い残念の境地。（特にこの半世紀に渡りいまのIT社会変革の原動力（言動力）となった原点に先駆的役割を担った、同窓、先輩の方々には心より敬意を感じるところです）でも、本当に心が和みます。

そんななか皆さんの紹介で、やはり越知町出身で市原市はもとより、日本を代表する白日会会員で画家の「左京武充」先生に出会い、高知県人のその心豊かな感性をもつ、いごっそう精神に感動したのも大きな衝撃であり、私の財産です。また奥さん（昌子さん）が本当にいいひとです。

また、高知工高の石元先輩から発信された声は、同窓を超えた同郷のあたたかいネットワークにもつながりました。

「四海の内、皆兄弟なり」、多くの仲間が仲良く付き合って暮らす意味合いとして、今の世の中に重要な示唆をする言葉に、同様な「四海兄弟」「四海

同胞」などという論語・類淵篇の子夏の言葉がありますが、それにはまだ程遠い働きのなかで、母校で学んだ工業技術とは違った、同郷、同窓の教えを、この地で活かすようあらためて自身を見つめ直したところです。

最後に、全国の同窓会会員の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

### 京滋支部だより

## 支部創立10周年を迎えて

## 『同窓会の活性化と起業の促進』

昭和二十九年造船科卒

京滋支部長

田村 武夫

全国同窓会の皆さんご機嫌いかがですか。

元、近畿支部が会員数のマンモス化に伴い発展的に解散した後、京滋支部は京都府と隣の滋賀県が合同により平成四年、全国で八番目の支部として会員一四〇人による全国最小の支部として誕生、来年で早くも十周年を迎えることになりました。この間、同窓会本部並びに全国会員の皆様には何かとご指導、ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

平成八年から京滋支部を始め全国会員の皆さんと一層の親睦を計るために、毎年三、四回、レジャー並びにスポーツ行事を開催しています。今年も春には各地の会員並びにご家族の参加を得て、新緑の京都、保津峡畔をトロロコ列車で下った後、嵐山から嵯峨野を散策（写真）。夏は恒例の琵琶湖畔でゴル

フ大会を開催、秋は紅葉の京都、貴船川から鞍馬山へのハイキング。

来年度は創立十周年記念の祝賀会（総会、懇親会）を始め別掲の通り恒例の行事を行います。広く全国からのご参加をお待ちしております。

支部創立十年の節目を機会に、今後とも会員相互の親睦と母校の発展に寄与する為に、今年一月の役員会にて次の通り今後の活動方針を決めました。

### 一、レジャー並びにスポーツ行事の充実

支部会員は若年者から中高年者に至るまで、又家族と共に年一回はいずれかの行事に気軽に参加されるよう、行事を長期的に計画すると共に内容も尚一層充実させる為に新たにリーダー制を設け、事務局、一名。事業部、三名（レジャー、ゴルフを除くスポーツ、ゴルフの各一名）を選任しました。

行事は従来通り、年間三、四回開催致します。

### 二、起業の促進と協働

定年を迎えても未だ元気です。最近では早期退職者も増え第二の人生として何かをしたい。出来れば今迄の経験と能力を生かし、小資本でかつ趣味と実益を兼ねた「事業」をしたい、と考えている人が多い様です。希望職種としては、マンツーマンのパソコン教室。自宅での委託設計。地域、団体のスポーツ指導。資格と社交性（顧客獲得）を生かして中小企業の非常勤顧問、会社経営…その他種々有ります。

次に事業を始められた方々についての事業内容の紹介は、インターネットによるホームページと支部広報等にて行い、若年者を含め一緒に働きたい人（求人）並びに利用したい人（顧客）を互助

精神にて広く求めます。

現在は試行錯誤の段階ですが、将来全国の各支部も協調してこの事業を広く展開すれば同窓会の事業として、事業内容を「にしきうら」に掲載し全国ネットとして活動することにより同窓会が活性化すると共に、母校の新規卒業生の採用増も大いに期待出来ると考えます。

近年新規卒業生の就職難・入学生減少・母校の存亡等に対して寺田同窓会会長は昨年の「にしきうら」巻頭にて「須工存立の道は遠く厳しくても同窓会は万全の努力が必要」と開校以来の危機感を訴えておられます。

起業の促進が同窓会の為、後輩の為、更に母校発展の為に寄与出来る事を期待します。

### 三、終身会費の全員納付運動

支部の運営は終身会費納付者に対して本部から毎年送られて来る支部配分金にて賄っております。

近年は卒業時に全員が納付されていますが、以前は個人納付の未納付の方も居り、当支部では約二割が未納付者でこの方には支部配分金は配分されず支部運営に支障を来しております。

支部の健全運営を計るために、終身会費未納付者に対し支部より早期納付のお願いをすることになり、今春未納付者宛に納付依頼書を送付致しました。

今夏、本部事務局から順次受領の中間連絡がありご協力に感謝しております。未だ納付されていない方は事情ご賢察の上納付方宜しく願います。



嵯峨野散策 清涼寺、嵯峨釈迦堂前にて

## 京滋支部で活躍の紅一点・紹介

### 『孫にも見せたい故郷 須崎』

昭和四十年化学工業科卒

京滋支部会計監査

吉村弘子  
(旧姓 石田)

須工を卒業して、滋賀で就職、結婚して三十六年が経ちました。故郷の須崎で過ごした倍の年月になります。就職した時は友達も知り合いもおらず寂しく、毎日、田舎へ帰ることばかり考えていました。職場で方言を使って皆んなに笑われた事も今は懐か

しい思い出です。寮生活をしていたので、夜は習い事に行ったり会社の体育館で卓球をしたりと楽しい四年間を送り職場結婚をして、二人の女の子に恵まれました。長女は東京、次女は同じ草津市内に居るので、週に二、三回は孫を連れて遊びに来るので、孫の成長が今一番の楽しみです。父は一昨年、ひ孫の顔を見る事なく八十二歳で他界し残念です。母は妹の運転で見に来て喜んで帰りました。五月に三回忌に帰ったら、又元氣なうちに、ひ孫を見に行きたいと言っていました。私が卒業した昭和四十年には、瀬戸大橋も高知自動車道もなく、フェリーに乗るのに七時間待って二十時間かかって帰った事もありました。今は四国に三つの橋が架かり六時間位で帰れる様になり、来年は須崎迄高速道が伸びるそうで、今から孫と行ける日を楽しみにしています。同級生の皆さん、須崎で又、同窓会をしませんか。

## 「京滋支部

### 平成十四年行事案内」

#### 一、役員会総会

日時：一月二十日(日)午後三時

場所：京都駅前、新・都ホテル

議題：①平成十四年度開催行事の詳細事項決定

②

③平成十五年度開催行事の審議並びに決定

行事内容は「にしきうら」第27号にて案内

③その他、諸会議並びに各行事の結果報告



二、創立十周年記念行事(定例総会並びに懇親会)

日時：六月二日(日)午後三時現地集合

場所：京都駅前、新・都ホテル

会費：女性と三十歳迄の男性：七千円

一般(三十歳以上)：九千円

三、余呉湖畔散策と賤ヶ岳(しずがだけ)ハイキング

余呉湖は琵琶湖の最北端に有り、賤ヶ岳の噴火により生れた周囲六kmの美しい湖で、はかなくも美しい天女の羽衣伝説の木が今も残っている。又、水上勉の小説「湖の琴」の舞台にもなった。

日時：四月十四日(日)午前十時JRB北陸線余呉

駅又は、午前九時JR東海道線安土駅集合。

会費：余呉駅集合組、千二百円。安土駅集合組、

二千円。女性と三十歳迄の男性、五百円割引

コース：余呉駅をスタートして湖岸の桜を眺めた

後賤ヶ岳に登る。三六〇度の見事な眺望を  
楽しみながら頂上でお弁当を広げる。帰途  
は秀吉の合戦跡をしのびながら、右に琵琶  
湖、左に余呉湖の美しい景色を山上から眺  
めつつ尾根伝いに余呉駅へと下りてくる。

このコースは年齢を問わず気軽に行ける  
ため家族向けのハイキングコースとして人  
気がある。お昼のお弁当は各自持参。

四、ゴルフ大会

日時：九月二十九日(日)午前九時現地集合

場所：滋賀県・琵琶湖大橋ゴルフコース

北へ中コース、初級・中級者クラス向。

会費：一般、一万六千円

シニア(六十歳以上) 一万五千円

内訳：プレー費、賞品代、会費、写真代。

五、湖東三山並びに永源寺の参拝と紅葉見物

滋賀県の湖東地区で歴史が深く三山として有名

な百済寺、金剛寺、西明寺に加え永源寺の四寺を

訪ねます。何れも素晴らしい庭園と建物があり、

四季を通して全国からの参拝客で賑わっています

が、特に秋の紅葉は素晴らしい。

日時：十一月十七日(日)午前九時

JRB東海道線安土駅集合

会費：四千円(拝観料、交通費、昼食費、写真代)

女性と三十歳迄の男性、三千五百円

\*参加の申込みは参加行事名をハガキ又はファッ  
クスにて、左記事務局まで成るべく早く連絡下  
さい。

参加の申込を頂いた方には行事開催日の一ヶ  
月前に詳細案内状を送付致します。都合で参加  
出来なくなった方はその時にお知らせ下さい。

参加申込み先

〒528-1004 滋賀県水口町貴生川610-116

電話・FAX 〇七四八六二一四三三〇

橋田 昌和(京滋支部事務局)

大阪支部だより

昭和二十七年機料年 山名潤治郎

大阪支部では、従来二年毎に開催していた総会を、  
四年毎に変更し、かわりに、年一回、家族同伴の親  
睦会を行うことに意見が纏まり、昨年十一月「二〇  
〇〇年亀岡・嵯峨野フェスティバル」と名打って、

京都湯の花温泉にて一泊の、第一回親睦会が開催さ  
れました。多数の参加者のもと、懇親会では、ゲー  
ム、カラオケ大会等、おおいに賑わいました。

翌日は、観光バスで名所見学、嵐山散策など楽し  
い二日間を過ごしました。酒蔵の見学では、もっぱら  
試飲の方に力が入り、帰りに、二本三本と酒を買  
う人もいて、売店のおばちゃんが「今日の団体さん  
何処のお方さんやろ、よう買うてくれはる。」

此の春、久しぶりに、生家の在る葉山村に帰りま  
した。新莊川沿いの道路脇に「かわうその里須崎」  
と書いた案内板をみて、昭和五十二、三年頃でした  
か新莊川でかわうそがみつかった、とのニュースを  
耳にしたことを思い出しましたが、今は絶滅したよ  
うに聞いています。私が子供の頃、家の前を流れる  
此の川では、朝夕時どきみかけたもので、かわうそ  
とは知らず、「鰻の親王」と、子供達は呼んでいま  
した。夏の間、子供達にとって、川は唯一の遊びの  
場所、日がな一日鮎とりをしたものでした。

夕方遅くまで川で遊んでいると、通りがかりのお  
年寄りに「早う帰らんといかん、暗うなるまで遊び  
よつたら(エンコウ)に、お尻から手を突込んで、  
腸を抜きとられる。」と言われたものでした。

近所に、子供好きで、話上手な、博士と自称する  
面白い「おんちゃん」が住んでいました。

おんちゃんに聞けば、宿題の答も即座に解答して  
くれますが、羽田の飛行場が大阪に、皇大神宮が出  
雲に在ったりして、先生によく笑われました。

村には、月に一、二回須崎の映画館から巡回映画  
が廻ってきて、神社の境内に、庭で囲った露天映画  
館が作られ上映されました。おんちゃんは、家業の  
傍ら、この映画の宣伝をして廻ります。「東西とう

ざい、今晚お宮の境内で、活動写真の大公開、製作は、松竹（マツタケ）映画、主役は、長谷川（ナガタニガワ）一夫、うたは、東海林太郎（トウカイリントロウ）一名調子で太鼓の音とともに、山間の部落を触れて行く、子供達は、その後をぞろぞろとついて行く。ひと廻りすると、木陰で一服、子供にせがまれ、今日はエンコウの話しでもするか、と話し始めます。

「かわうその雄が長生きし過ぎると、神通力が備わり、自由自在に変化する。この能力を持ったカワウソを（エンコウ）と言い、これに善玉、悪玉の二種が居る。善玉は、子供が大好きで、子供に化けて、一緒に泳ぎ鮎とりをする。溺れる子を見付けると助けあげ介抱する。早魃には雨乞いをし、雨を降らせて、五穀豊穡を祈願するエエ奴じや。悪玉は、池の鯉を盗みし、人を化かす。須崎の魚屋が、川で鰻を買い、帰って見てみたら、全部縄切れに変わっていた、こりやエンコウの仕業じや。

水泳を教えていた女の先生のそばに、知らない子が立っていた。名前を聞くと「エン・コウタ」と答え、先生のお尻をサット一撫でして、淵の底にもぐり込んだ。お尻には手形が残っていつまでも消えないと言う。綺麗な女の子を勾わかって、お妾にしたり、色街へ売ったりする。これを助平エンコウと言うて困った奴じや。」こう言う話になると、おんちゃん顔がゆるんできます。

お妾、色街、助平など意味がわからないまま、「怖いネヤ」と、皆んなで顔を見合わせたものでした。話のおわりは必ず「君達は、天皇様には忠義を、親には孝養をつくせば、悪いエンコウもよりつかない」と言うことで話は終わりますが、おんちゃんも、

エンコウも、勉強は嫌いであつたのか、何十回となく聞いた話のなかに、勉強せよと言う言葉は、一度もありませんでした。

おんちゃんは、面白い作り話と上手な語りで、子供達を充分楽しませたのち、また太鼓を叩きながら、東西とうざい、と次の部落へ歩いて行きました。今、新莊川の水は汚れ、鮎の姿も殆んどみかけられなく聞きませんが、環境を整え、以前のように、鮎の多く住む清流をとりもどせば、また何処からかわうそが帰ってきて、楽しい話が作られるようになると思います。

「かわうその里須崎」の案内板をみて、子供の頃のかわうそにまつわる思い出を書いてみました。



#### 高知支部だより

### 電気通信科設置五十周年 記念同窓会の盛会を祝う

昭和二十七年機械科卒

支部長

井上健弘

同窓生の皆さま、お元気で各分野でご活躍のことと、お喜び申し上げます。

この原稿の依頼を受けますと、はやあれから一年過ぎたのかと月日の経つ早さに感嘆されてしまします。これも自分が化石化している現象かと嘆かわしいやら腹立たしいやらの昨今であります。

本年の高知支部の状況をお知らせしますと、先ずは、五月二十五日に恒例の高知支部年次総会を県庁前の高知会館で催しました。当日ご多忙の中、時間を割いて毎年ご出席下さる寺田会長、東京出張から直接駆け付けて頂いた橋本校長、更に開校記念行事が母校で開かれたのですが、それを済ませて垣内教頭、津野事務局長、及び当日記念講演会講師を引受けられた中西副支部長、他に竹村元教頭、久元教頭、中西氏は高知支部なのでその他の方々が毎年必ず出席して下さいるご来賓です。

支部の内は、昭和十八年卒の田辺元会長、清家前会長はじめ六十名の参加を得ました。中でも昭和二十一年卒の皆さんは大変纏まりがよく十名出席してくれます。

茲で特筆すべき事柄を一つ、昭和三十年電通科卒の故江洲俊明君は市内で「あたご写真館」を開店していたのですが、残念ながら他界され、その後を万

伎子夫人が引き継いでやっているのです。存命中は彼も高知支部のためによく働いてくれたので皆が、是非夫人に特別会員になってもらって記念写真もそちらへ頼もうではないかと言うことになり、この六年程総会へ出席の上撮影を依頼しております。

高知支部も恒例行事ですが毎年好い雰囲気、然も花も加わり盛り上がりつつあります。

さて、前回の会報「にしきうら」にも掲載し、執行部からも大々的に誌面でPRされた「電気通信科五十周年記念同窓会」について述べたいと思います。

十三名の東は関東から西は九州迄担当された代表世話人及び実行委員の方、懸命のご努力本当にご苦労さまでした。日本国中の同窓生に縦割り横割りのネットを張り一人でも多くの方に出席して貰おうと頑張ってきた情熱に頭が下がります。

中でも秋山総代表は体調芳しからぬ状態で県のコンベンション、ビューローとの約束もあり夜に日を継ぐ奮闘、大変だったと思います。

だがそのお陰で一番に眼に着いたのは県庁前の大看板塔です。高さは三階位あったでしょう。普段は全国規模の大会でしか見ない看板に須崎工業高校同窓会と大きく書かれ三日以上建っていた訳で、通行人の眼にも飛び込んだでしょう。県教委も須工OBの力を感じたと推察します。

更に参加人数に就いては、締切りの頃に一〇〇名を大幅に割っていたと聞きよくぞここ迄増やせたものと驚愕の極みでありました。

愈、入場、三翠園の一番の大広間一杯三百有余名の席にステージ、その左壁面には我等が誇りとする画家、昭和三十年電通卒の野並氏の大作ボールの連山と花が約2米×5米のキャンバスに堂々と描写

され皆さんの目を奪う。これは母校に贈呈されるものでいづれ度々観賞できるでしょう。

式は橋本校長を初めとしての祝辞、秋山総代表の答辞で乾杯と進んでいった。

なにもさ全園から集まれ、卒業以来の再会の方も、夫人同伴の方も、お互い夫々に懇談に熱が入り大いに盛り上がったものです。兎に角時間が不足で中締めの後も名残りを惜しんで話が切れないものだから執行部も退場へ導くのに骨を折っていました。

その後二次会希望者は最上階のビュールームへ。十一時迄飲み放題、歌い放題の特別セット。ここでも乗って乗って、約六十名だったと思うが、ご夫人方も一緒に皆さんご満足な様子でした。

こうして最後の幕は降ろされましたが、この三翠園の設定も岩田支配人に秋山総代表が無理を通されたと思えたのは私だけだったのでしょうか。ご両人に感謝し、御礼を申し上げます。

翌日は快晴に恵まれ、土佐山田ゴルフ倶楽部でゴルフコンペ。実行委員の矢野さん他のお世話で、アウト、イン四組宛同時スタートで三十一名の方が参加、小生が始球させて戴いたが、本番ではメモロ、スコアは聞かないで下さい。

でも暑くも寒くもない絶好の日和の中で、より親善を深め楽しくプレーができ、最高の一日でした。

新ベリア方式で計算されましたが上位入賞者は

- 優勝 上村さん (31T) グロス 87
- 準優勝 矢野さん (30T) 〃 80
- 第三位 岡さん (32T) 〃 90

でした。最後に皆様の益々のご健勝お祈り致します。



平成13年度 第16回高知県立須崎工業高等学校同窓会高知支部総会  
(開校60周年 電通科創設50周年) 2001. 5. 25

# ドラゴンカヌー大会に出場して

昭和五十四年機械科卒

坂本 定浩

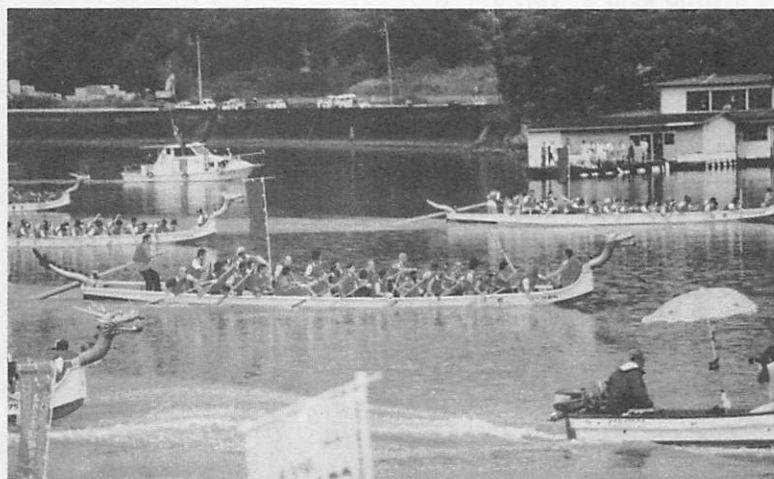
同窓会会員の皆様こんにちは。

十数年前にこの会報へ「こんなことやっています」という題目で載せていただいて以来となりますが今回も何を書こうかと迷っていたところ標記の事について少し書いてみることにしました。

まずドラゴンカヌー大会は、昨年退職された造船科の山崎先生を中心として造船科の生徒さん達が須崎市の発展のため何か出来る事はないかと、ドラゴンカヌーを製作し、須崎市に九艇贈呈された事がきっかけで行われる様になりました。今年で第三回となります。

私は、昨年より松本鮮魚店チームで出場しております。もの好きで個性的な仲間と外国人とで編成されたチームです。昨年の大会は、練習なしのぶっつけ本番でレースに臨みました。予選から回をかさねていくごとにタイムを縮めて決勝戦まで勝ち上がり、本命の池の浦チーム、相生市体育指導委員会チームを抑えみごと優勝する事が出来ました。その晩の優勝祝賀会では、応援の方達も参加してくれ五十人ほどとなり賞金の十万円では足りなくなったことでした。

そして今年五月二十七日に相生市でベロン競漕があり昨年優勝チームという事で参加させていただきました。オーブンレースの部に出場しました。須崎のドラゴンレースの三〇〇m直線コースとは違い、



三〇〇mでターンしゴールを目指す六〇〇mのコースでした。一回のみのトライで、力の配分も分からず、ターンしてすぐに全員バウダウンしてしまいました。四チーム中二位という成績でした。一般男子一部のレースでは、さすが本場！スピードと迫力のあるレースをみせつけられました。

そして今年のドラゴンカヌー大会では、松本鮮魚

店チームは、カツオチーム・タタキチームの二チームを編成し、外国人も十数人出場大会に臨みました。私はカツオチームのかじ取りを担当しました。第一予選では全員の息が合わず、パドルさばきもバラバラで一分三十四秒とまさかの二位。次のレースに向け、パドル操作を変更しパドルのタイミングも合う様に話し合い練習し第二予選では、一分二十四秒と好タイムが出てこの時点で一位となりました。その後池の浦チームが一分二十二秒を出し最終的には、二位で準決勝進出となりました。準決勝では、全員が九丸となりパドルタイミングも合い再びタイムを縮め一分二十一秒で決勝進出。決勝では、スタート直後から池の浦チームに一艇身おくれをとり苦戦、ラスト一〇〇mでスピードがあがりゴール直前では接戦、「もしかして抜いたかな」と思ったのですが鼻の差数十センチに涙をのみました。負けたと思った瞬間、全員の力が抜け言葉もなく固まってしまいました。今年は優勝を池の浦チームに譲りましたが来年はこのくやしさをバネに、優勝めざしがんばりたいと思います。

同窓会の皆様もチームを作り、どんどん参加してみませんか！

最後に、この様な大会が開催されるきっかけとなったドラゴンカヌーの製作に当たられた山崎先生を中心とする造船科の皆様ありがとうございました。心より感謝致します。

そして同窓会の皆様のご多幸とご活躍、須崎工業高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 事務局便り

会員の皆様、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年五月二十五日に、六十回目の開校記念日を迎えました。記念行事として、卒業生による記念講演、各科対抗綱引き大会を催しました。

記念講演には講師として、昭和三十二年機械科卒・中西安男氏に「私の歩んできた道」を題に講演をお願いしました。中西氏は、昭和三十二年本校卒業後、東洋電化工業株式会社（高知市）に入社され、現在は、グループ会社・東洋園芸食品株式会社（土佐山田町）にて営業統括取締役として国内外に活躍されています。改めてお礼を申し上げます。

この後の綱引き大会も盛大に行われ、今年は機械科が優勝しました。

七月十五日に、母校造船科が須崎市発展のために九艇贈呈して行われている第三回須崎市ドラゴンカヌー大会が総勢三十一チームの参加で開催され、母校からも三チーム参加し空手部チームが三位に入賞いたしました。会場には、各地域・職場チームまた応援の中に同窓生の顔が半数以上見え、和やかに且つ盛大に催されました。

九月十日には、「電気通信科設置五十年記念大会」が三翠園（高知市）において開催され県内外より三百人程の参加があり、華やかに且つ盛大に催されました。また、本席上において記念品として母校に野並允温画伯（昭和三十年電気科卒）の絵画（八〇〇号大）が実行委員長長秋山正元氏より橋本俊彦校長に贈呈されました。まことにありがとうございました。

本年は、創立六十周年にあたりその記念として名簿発行を計画実行し、予約販売しました。

事務局に若干の冊数があります。希望者は三千五百円＋送料で販売致しますので連絡してください。

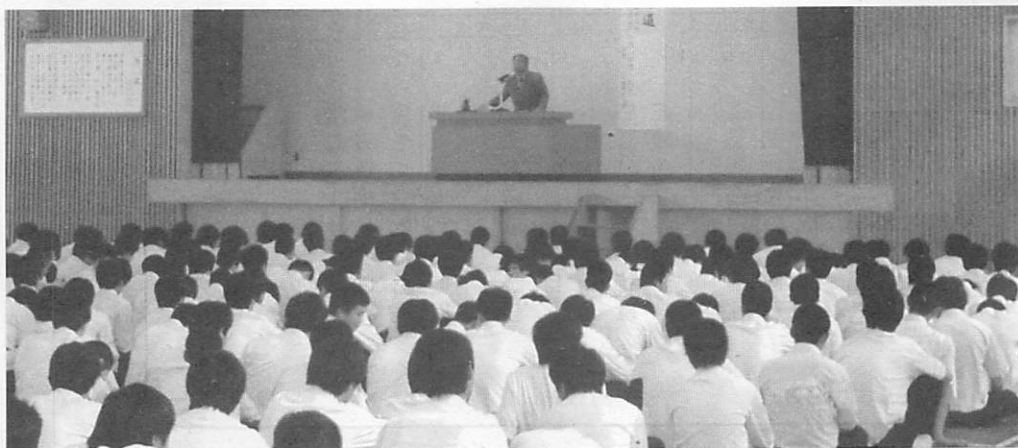
平成十四年は、総会を別記日程にて開催いたしますので多数の参加をお願いいたします。

平成十四年九月七日 土曜日

総会 午後四時～六時  
懇親会 午後六時～八時  
場所 JAとさくろしお（三階）  
須崎市大間本町一四二六



講師 中西安男先生 昭和32年機械科卒業



## 同窓会終身会費納入の お願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を持って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実情にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、(会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます)同窓会活動を今後とも益々発展さすため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力お願い致します。平成8年8月の総会にて終身会費の値上げが決定され、1万5千円の納入をお願い致しております。

## 須工同窓会高知支部総会へのご案内

【恒例によりまして、いつもの処で、いつものように開催します。】

日時 平成14年5月25日 18:00より(母校開校記念日)

場所 高知会館(県庁前電車道南側 電話088-823-7123)

会費 一般¥5,000

平成12.13.14年卒業生と女性 ¥3,000

(記念写真代は不要)

老いも、若きも、女性・男性にかかわらず多勢の皆さんのご参加をお待ちしております。高知支部以外の方のご参加もお待ちしております。

支部長 井上健弘 電話 (088) 872-5075

## 新聞広告の依頼(協賛金)

にご注意下さい。

最近、須崎工業高校〇〇周年記念等の新聞広告を出すので、協賛金をお願いしたいとの勧誘がありますが、学校、同窓会では、一切そのような広告を出しておりませんので、お断り下さい。

## 校歌

一、  
須崎工業高校の  
教の庭に身と心  
新天新地光明の  
輝やくもとに勇ましく  
日々鍛いぬく健児団

二、  
自然の暗示わが教  
大平洋の荒波は  
わが人生の活動か  
さらに心の平穏は  
波静かなる錦浦

三、  
工業報国理想とし  
自主独立の精神を  
いだき責務を怠らず  
真理と正義重んじて  
わが向上の道を逐う

# 終身会費納入済者名 (平成12年度から13年10月20日まで)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

化学工業科

衣大大大尾小川河坂下高高武箇中鍋西野濱濱濱弘福村森矢山吉  
 斐崎崎谷原碓原上村本元野橋田井川島川中口田田瀬井上沢野下岡  
 文見浩真浩清弘昌 憲 幸知義保雄弘順元征大昌隆正 佳浩大大 祥公和浩明 純英朋基 勇政智友純康睦健  
 昭史明人幸人展則朝生優治宏隆博大輔陽一家輔利幸規勇貴章助輔 裕平樹隆成廣仁勇二喜也樹慎太之一平平生二

永駿太都英 洋寿 寿優茂優 正貴洋 祥陽 彰十典祐真 裕直大 要洋 正恭宏 秀友 良康太雅佳 裕清辰洋  
 岡原松竹木橋橋内口脇井 村越越部岡田田口本谷崎田高田 尾川崎林川下本岡橋内井友村山山村 田谷本上井山澤  
 片黒小佐鈴木高高竹谷谷玉佃寺中中南西野橋濱福古宮村森森 飯市岩岡北木坂笹高武中長中長中西林弘古松道村本米

造船科

<昭和45年>  
 機械科 山本博司  
 <昭和46年>  
 化学工業科 黒瀬美喜子  
 <昭和47年>  
 電気科 濱田啓嗣  
 <昭和48年>  
 機械科 横山順一  
 <昭和49年>  
 機械科 片岡真二  
 <昭和50年>  
 機械科 永野庸彦  
 造船科 上岡忠  
 <昭和51年>  
 電気科 池田富男  
 <昭和52年>  
 造船科 山本信男  
 <昭和54年>  
 造船科 山本勇二  
 <平成13年>  
 機械科 青池稲梅 梅大 岡岡岡  
 木田住原原崎原前田林村  
 幹俊 敬悠理直裕知宏尚  
 治一純史也秀樹美已明拓

<昭和23年>  
 機械1種 宮崎豊実  
 <昭和24年>  
 造船科 間嶋完介  
 <昭和28年>  
 機械科 浜崎温美寛  
 藤田  
 <昭和30年>  
 造船科 安並洸吉  
 <昭和33年>  
 機械科 久岡栄郎  
 <昭和34年>  
 機械科 橋本邦男  
 <昭和35年>  
 電気通信科 百代靖夫  
 <昭和38年>  
 機械科 松浦博明  
 <昭和39年>  
 電気通信科 山中弘志  
 <昭和40年>  
 化学工業科 吉村弘子  
 永田伸雄  
 <昭和41年>  
 機械科 石村清一郎  
 神崎正和  
 電気科 浜潤輔  
 <昭和44年>  
 化学工業科 野村隆博

平成12年度一般会計決算報告書

単位 (円)

| 項目           | 金額        | 備考          |
|--------------|-----------|-------------|
| 収入           |           |             |
| 前年度繰越金       | 229,334   |             |
| 新入生入会金       | 302,000   | 2,000円×151名 |
| 定期預金利息       | 99,351    |             |
| 普通預金利息       | 976       |             |
| 雑収入          | 525       | 同窓会総会現金     |
| 特別会計補助       | 2,100,000 |             |
| 合計           | 2,732,186 |             |
| 支出           |           |             |
| 会費           | 84,277    | 理事会・その他     |
| 事業費          | 54,600    | 開校記念品代      |
|              | 446,250   | 会報印刷代       |
|              | 616,750   | 会報送料        |
|              | 27,060    | プリンター修理代    |
|              | 18,480    | 卒業証書用丸筒代    |
|              | 22,500    | 歴代校長写真2名分   |
|              | 30,000    | 功勞賞商品券代     |
|              | 4,000     | 収入印紙代       |
| 通信費          | 28,950    |             |
| 事務費          | 3,054     |             |
| 慶弔費          | 89,200    |             |
| 旅費           | 181,772   |             |
| 支那配分費        | 770,400   |             |
| 雑費           | 2,467     |             |
| 雑収入          | 0         |             |
| 合計           | 2,379,760 |             |
| 平成13年度への繰越金額 | 352,426   |             |

平成12年度特別会計決算報告書

| 項目         | 金額         | 備考             |
|------------|------------|----------------|
| 収入         |            |                |
| 前年度未累積額    | 33,960,000 |                |
| 平成11年度納入額  | 1,665,000  | 15,000円×新卒111名 |
|            | 345,000    | 15,000円×旧卒23名  |
| 合計         | 35,970,000 |                |
| 一般会計へ補助    | 2,100,000  |                |
| 合計         | 2,100,000  |                |
| 平成13年度へ累積額 | 33,870,000 |                |

監査報告

帳簿及び証憑類等により監査の結果、金額その他については相違なく、  
預金通帳・定期預金証書とともに簿実と管理適正に執行されています。  
平成13年4月13日

監査 坂本 西森  
操 豊



【収入】 平成13年度一般会計予算 (案)

| 項目     | 金額        | 備考          |
|--------|-----------|-------------|
| 前年度繰越金 | 352,426   |             |
| 新入生入会金 | 250,000   | 2,000円×125名 |
| 定期預金利息 | 96,800    |             |
| 普通預金利息 | 774       |             |
| 雑収入    | 0         |             |
| 特別会計補助 | 2,000,000 |             |
| 合計     | 2,700,000 |             |

【支出】

| 項目    | 金額        | 備考                |
|-------|-----------|-------------------|
| 会費    | 120,000   | 理事会・その他           |
| 事業費   | 60,000    | 開校記念品代            |
|       | 500,000   | 会報印刷代             |
|       | 650,000   | 会報送料              |
|       | 25,000    | 卒業証書用丸筒代          |
|       | 100,000   | 電気通信科創立50周年記念事業補助 |
| 通信費   | 30,000    |                   |
| 事務費   | 40,000    |                   |
| 慶弔費   | 120,000   |                   |
| 旅費    | 250,000   |                   |
| 支那配分金 | 64,400    | 関東 200円× 322名     |
|       | 54,300    | 中京 300円× 181名     |
|       | 34,800    | 京畿 400円× 87名      |
|       | 87,400    | 大阪 200円× 437名     |
|       | 174,600   | 高知 200円× 873名     |
|       | 306,340   | 須崎 170円×1802名     |
|       | 34,500    | 徳川 300円× 115名     |
|       | 32,400    | 福多 300円× 108名     |
| 雑収入   | 10,000    |                   |
| 雑費    | 6,260     |                   |
| 合計    | 2,700,000 |                   |

平成13年度特別会計予算 (案)

| 項目         | 金額         | 備考           |
|------------|------------|--------------|
| 収入         |            |              |
| 前年度未累積額    | 33,870,000 |              |
| 平成13年度納入額  | 2,130,000  | 15,000円×142名 |
|            | 150,000    | 15,000円× 10名 |
| 合計         | 36,150,000 |              |
| 一般会計へ補助    | 2,000,000  |              |
| 合計         | 2,000,000  |              |
| 平成14年度へ累積額 | 34,150,000 |              |



# 平成13年度 役員名簿

| 役 職  | 氏 名     | 卒コード     | 科 別     |       |
|------|---------|----------|---------|-------|
| 相談役  | 田 辺 博 造 | 1S18-013 | 機 械 2 種 |       |
| 〃    | 清 家 寛   | 1S18-010 | 機 械 2 種 |       |
| 〃    | 森 岡 清   | 1S26-020 | 機 械     |       |
| 名誉会長 | 橋 本 俊 彦 |          |         | 母校校長  |
| 会 長  | 寺 田 郁 雄 | 1S21-025 | 機 械 1 種 |       |
| 副会長  | 岡 林 幸 保 | 1S28-038 | 造 船     |       |
| 〃    | 下 元 征 夫 | 1S37-129 | 電 気 通 信 |       |
| 〃    | 垣 内 守 男 |          |         | 母校教頭  |
| 〃    | 津 野 隆   | 1S41-090 | 造 船     | 事務局長  |
| 常任理事 | 森 下 春 茂 | 1S21-019 | 機 械 1 種 |       |
| 〃    | 武 内 徳 雄 | 1S23-034 | 機 械 2 種 |       |
| 〃    | 井 上 健 弘 | 1S27-002 | 機 械     | 高知支部長 |
| 〃    | 井 上 耿 介 | 1S39-004 | 機 械     |       |
| 〃    | 山 地 健 三 | 1S39-180 | 化学工業    | 須崎支部長 |
| 〃    | 西 山 庸 一 | 1S48-090 | 造 船     | 事務局   |
| 〃    | 宮 崎 司   | 2H11-056 | 造 船     | 事務局   |
| 理 事  | 川 添 泉   | 1S21-012 | 機 械 1 種 | 窪川支部長 |
| 〃    | 廣 瀬 理   | 1S21-029 | 機 械 1 種 | 京滋支部  |
| 〃    | 吉 村 功   | 1S21-081 | 機 械 2 種 |       |
| 〃    | 坂 本 臣 三 | 1S25-009 | 機 械     |       |
| 〃    | 野 並 允 温 | 1S30-080 | 電 気 通 信 | 大阪支部  |
| 〃    | 中 西 安 男 | 1S32-023 | 機 械     |       |
| 〃    | 松 浦 政 志 | 1S35-065 | 機 械     | 幡多支部長 |
| 〃    | 堀 内 靖 博 | 1S36-061 | 機 械     | 関東支部長 |
| 〃    | 沖 良 二   | 1S39-013 | 機 械     | 中京支部  |
| 〃    | 笹 岡 文 子 | 1S39-157 | 化学工業    |       |
| 〃    | 竹 田 友 一 | 1S42-042 | 機 械     |       |
| 〃    | 梅 原 正 博 | 1S47-116 | 化学工業    |       |
| 〃    | 坂 本 定 浩 | 1S54-009 | 機 械     |       |
| 会 計  | 山 岡 英 樹 | 1S57-034 | 機 械     | 事務局   |
| 監 査  | 坂 本 操   | 1S43-030 | 機 械     |       |
| 〃    | 西 森 豊   | 1S45-151 | 電 気     |       |
| 支部長  | 下 村 昇   | 1S24-055 | 機 械     | 大阪    |
| 〃    | 田 村 武 夫 | 1S29-050 | 造 船     | 京滋    |
| 〃    | 沖 本 毅   | 1S33-012 | 機 械     | 中京    |



## 寄贈 電気通信科設置50周年実行委員会

作：「ポインセチアとアンナブル十連山」 野並允温氏 昭和30年電気通信科卒

### 各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十九頁の様式)

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

|         |           |
|---------|-----------|
| 卒業証明書   | 一通につき四二〇円 |
| 成績証明書   | 一通につき四二〇円 |
| 単位修得証明書 | 一通につき四二〇円 |
| 送料      |           |

送り先 千七百五十八五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話(〇八八九)四二一八六一

FAX(〇八八九)四二一七一五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

### 編集後記

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆様に原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よく寄稿頂きありがとうございます。

会報「にしきうら」第二十六号を、お送りいたします。会報届け先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉書で事務局まで連絡下さいますようお願いいたします。

平成十四年度も会報第二十七号を発行予定しておりますので、ぜひ皆様のご寄稿をお願いします。尚、勝手ながら、原稿は九月五日までに事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。

編集委員

会報「にしきうら」第二十六号

平成十三年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

有限会社笹岡印刷所

印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号

電話(〇八八九)四二一〇二四四番

本年より資源保護のため再生紙を使用しています。